

# 協議事項説明

## 1 協議事項

(1) 八代市立病院が長年にわたり果たしてきた地域医療における後方支援機能としての役割の継承に関すること。

### 入院前、退院後の患者の状況について【資料1】

入院前・退院後の患者の状況の数値は、地域の医療機関や介護施設との連携や適切な病床運用を確認する指標。

#### 【院内の他病棟からの入院率】

熊本総合病院	令和元年度	89.4%
	令和2年度	80.9%
八代北部地域医療センター	令和元年度	79.1%
	令和2年度	79.7%

#### 【在宅復帰率】

熊本総合病院	令和元年度	92.5%
	令和2年度	82.8%
八代北部地域医療センター（80歳以上）	令和元年度	88.8%
	令和2年度	87.2%

### 患者数（医療圏別・年齢層別）について【資料3】

八代圏域の患者割合や年齢層割合を確認することで適切な病床運営をチェックする指標。

#### 【八代圏域の患者割合】

熊本総合病院	令和元年度	84.9%
	令和2年度	84.7%
八代北部地域医療センター	令和元年度	96.2%
	令和2年度	93.3%

※両医療機関とも、地域包括ケア病棟への入院は、院内の他病棟からの入院がほとんどで、後方支援機能であるポストアキュートが機能したとうかがえます。また、両医療機関とも八代圏域の患者割合が高く、地域医療における役割を果たすことができていると考えられます。更に、退院後のほとんどが有料老人ホームを含む在宅への退院であり、地域包括ケア病床の施設基準では、在宅復帰率が7割以上と定められておりますことから、両医療機関とも高水準で適切な病床運用がなされていることがうかがえます。

#### ★ポストアキュート機能

主に、急性期医療で治療を終えた患者が、在宅復帰または介護福祉施設等への入所に至るまでの受け皿として機能。

## (2) 再編移転した病床の機能に関すること。

### 病床利用率及び平均在院日数について【資料2】

病床利用率及び平均在院日数の数値は、再編移転した病床（回復期かつ地域包括ケア病床）がその目的どおりに運用されているか判断する指標。

#### 【病床利用率】

熊本総合病院	令和元年度	77.9%
	令和2年度	79.1%
八代北部地域医療センター	令和元年度	96.9%
	令和2年度	97.8%

※両医療機関の特性や機能に応じて病床が利用されたものと推測します。

#### 【平均在院日数】

熊本総合病院	令和元年度	33.4日
	令和2年度	33.0日
八代北部地域医療センター	令和元年度	28.5日
	令和2年度	27.2日

※地域包括ケア病床の在院日数の上限は60日となっておりますので、両医療機関とも適切な病床運用を実施されていることがうかがえます。

(3) 再編移転した病床に係る八代地域の医療機関、介護施設等との連携状況に関すること。

#### 患者数（医療圏別・年齢層別）について【資料3】

八代圏域の患者割合や年齢層割合を確認することで適切な病床運営をチェックする指標。

#### 【八代圏域の患者割合】

熊本総合病院	令和元年度	84.9%
	令和2年度	84.7%
八代北部地域医療センター	令和元年度	96.2%
	令和2年度	93.3%

※両医療機関とも八代圏域の患者割合が高く、八代地域の医療機関や介護施設との連携と地域全体の医療向上に努めておられることがうかがえます。

#### 【年齢層別患者割合】

熊本総合病院は、令和元年・2年とも60～69歳が2割、70～79歳が3割、80歳以上が3割となっており、全体の8割を占めています。

八代北部地域医療センターは、令和元年・2年とも80歳以上が7割を占め、高齢者の利用率が高いことがうかがえます。

以上3つの資料から、両医療機関とも八代地域の医療機関や介護施設等と連携を図り、八代地域の人たちが地域包括ケア病棟を利用し、八代地域で必要な時に必要な医療を受け、住み慣れた地元八代で安心して暮らせるよう尽力されておられることから、基本協定書における「再編移転の理念及び責務」は確実に履行されていると考えます。